

5 同音異義語と関連付けて、漢字の表意性・表音性の理解を深める指導について ～国語辞典を活用して～（5・6年）

<p>【板書事項】</p> <p>カルタづくりをしよう</p> <p>＊あつい</p> <p>・厚い本 ・熱いお湯 ・暑い日 ・厚いステーキ ・熱い風呂</p> <p>＊放課後に友だちと（合う・会う）</p> <p>【学期】</p> <p>二がっきが始まる</p> <p>【楽器】</p> <p>がっきを演そつする</p> <p>【協力】</p> <p>全員できょうりよくする</p> <p>【強力】</p> <p>きょうりよくなチームになる</p> <p>同音異義語</p> <p>【効果】</p> <p>薬のこうかが現れ始めた。</p> <p>【校歌】</p> <p>朝会でこうかを歌つ。</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <p>1 「あつい」と黒板に書き示す。 「空欄に入る言葉を書きなさい。」</p> <p>2 「本、一日、お湯、お風呂、卵焼き…」</p> <p>3 空欄に入る言葉によって「あつい」が異なる漢字となることを考えさせる。</p> <p>4 「あつい」を に対応した漢字に直しなさい。</p> <p>5 「厚い本、暑い一日、熱いお湯…」</p> <p>6 別な語例について示し、正誤を考えさせ、漢字の表意性について説明する。</p> <p>7 「放課後に友だちと（合う・会う）」は、どちらが正しいでしょう。</p> <p>8 同音異義語（同訓異字）を調べる場合は、国語辞典が有効であることを実感させる。</p> <p>9 国語辞典を使って、発音は同じだけれど違う意味をもつ言葉を三組集めましょう。</p> <p>10 「楽器・学期」「強力・協力」「校歌・効果」</p> <p>11 カルタづくりの方法を示す。</p> <p>12 集めた言葉でカルタをつくりましょう。</p> <p>13 絵札には『正しい漢字』、読み札には『その漢字（漢語）を用いる文』を書きます。</p> <p>14 ペア・グループの形態でカルタ遊びを行う。</p> <p>15 作ったカルタを出し合って、隣の人とカルタ遊びをしましょう。</p>		
<p>【留意点】</p> <p>1 漢字の力を付けるための「カルタづくり」を行うことを最初に伝えておく。空欄に入る言葉は思いつくだけノートに書かせる。</p> <p>2 ここでは、まだ辞書を使用させない。文脈に即して、自分の語彙で考えさせる。</p> <p>3 発音が同じで意味が違う語のことを、「同音異義語」ということを板書し、補説する。</p> <p>4 辞書の引き方（能力）で個人差が大きい場合は、凡例となるように、「がっき」を一斉に調べ、楽器・学期の違いを板書で示す。</p> <p>5 読み札の「文づくり」については、辞書の用例文を参考にさせてもよい。</p> <p>6 カルタ遊びの流れ 教師が読み札を読む。 正しい漢字の書いてある札を取る。 ペアで全部取り終わったら、グループ（五～六名）で行う。</p> <p>参考資料 森竹高裕氏の実践を参考に改編</p>		